ART KISS LETTER

TITLE

和田誠展

DATE

2022
4.23(土)／6.19(日)

開館時間　10:00－20:00（展覧会入場は19:30まで）
休館日　火曜日、5.6（金）
＊ただし5.3（火・祝）は開館

東日本大震災チャリティより
2013年
© Wada Makoto

和田誠ブックガイド

WADA Makoto BOOK GUIDE

和田誠さんは長いキャリアの中で作品集、絵本、エッセイや対談集など200冊以上の自著を残しています。ここでは、現在でも入手しやすく、和田さんを知る上で欠かせない本を紹介します。一部は没後に出版されたものです。

執筆：吉田宏子（「和田誠展」監修者）

新聞挿絵より
© Wada Makoto

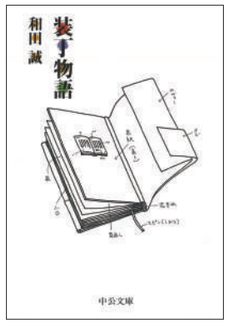
パロディの金字塔が蘇る

『もう一度倫敦巴里』

2017年　ナナロク社

パロディとは文学などで広く知られている既成の作品を、その特徴を巧みにとらえて、滑稽化・風刺化の目的で作り変えたものとされます。和田さんが雑誌『話の特集』などで発表したパロディは1977年に『倫敦巴里』（話の特集）にまとめられました。本書はそれに未収録作品を加えたもの。川端康成の「雪国」を筒井康隆や横溝正史が書いたらどうなるかという文体模写シリーズや、イソップの「兎と亀」をテーマに黒澤明や山田洋次、ヒッチコックが映画を作ったとしたらなど。少々毒のあるパロディもあり、アイデアとセンス、描写力の高さに驚かされます。

和田流装丁の極意ここにあり



『装丁物語』

1997年　白水社
2020年　中公文庫

和田さんは生涯に、新書、文庫を含めると2400冊以上の装丁を手がけています。本書は、装丁とはどういうパーツでできているのか、また編集者から依頼を受け、ゲラ（文字組みされた原稿）を読み、絵を描き、文字を配しデザインするという、一冊の本を作り上げるプロセスを詳しく紹介した、本への興味がそそられる一冊です。具体的な事例を通じて和田さんの装丁へのこだわりや熱意、創意工夫が随所に見られます。本項で紹介している自著の装丁についても回想されており、装丁の楽しさを伝える一方で、出版文化を踏まえての書籍バーコードへの苦言も。

殿堂入りの映画エッセイ

『お楽しみはこれからだ』1～7

1975～97年　文藝春秋
2022年～　国書刊行会

深い洞察力と知識に裏付けされた内容を、さらりとした読みやすい文章で綴る和田さんのエッセイのファンは多く、特に本書は人気が高いシリーズ。これは映画の名台詞について書かれたもので、タイトルは中学生の時に観た映画『ジョルスン物語』（1946年）の台詞から。この映画に魅せられた和田さんは学生時代に台詞や映画評論などをノート3冊にわたって書き写しています。
連載当初はビデオやDVDが普及していない時代だったため、台詞を確認する作業ができず、最初の2巻はすべて記憶だけで書かれているというから驚きです。本書をきっかけに映画ファン、和田ファンになった人も多いそう。

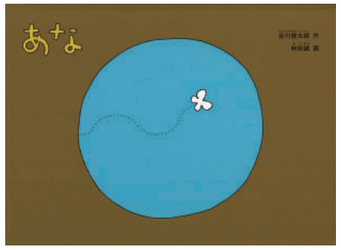
愛らしい挿絵が満載

『マザー・グース』1～4

訳：谷川俊太郎
1981年　講談社文庫

和田さんとマザー・グースの出会いは小学4年生の頃。児童雑誌で読んだ口調のいい面白い詩がマザー・グースでした。本作は谷川俊太郎さんの訳による全4巻336編もの詩に和田さんが挿絵を描いたロングセラー。原文と解説もあるので、マザー・グースの世界をより深く理解できます。「マザー・グースの詩は可愛いらしいのもあり、残酷なのもあり、思いきりナンセンスなものもありで、絵を描くのも大いに面白い。マザー・グースに惚れて、自分で翻訳までしてしまった」と語った和田さんは自発的に押韻にこだわった翻訳をし、和田誠訳版のマザー・グースも刊行されました（『オフ・オフ・マザー・グース』『またまた・マザー・グース』　筑摩書房）。

大人も考えさせられる絵本



『あな』

文：谷川俊太郎
1976年　福音館書店

谷川俊太郎さんは、和田さんが数多くの絵本でタッグを組んできた人です。「谷川さんの作品は詩でも絵本のテキストでも発想がユニークで、その意外性が谷川作品に絵をつける時、ぼくの中に隠れていた絵の手法を掘り起こしてくれるので有難い」と和田さんは語っていますが、本書もその一例。ある日曜日、突然庭に穴を掘りはじめたひろし。ただ穴を掘り、ひろしにピッタリの穴に座る。そして最後には……。
「何の理由もなく、ある日、ふと穴が掘りたくなる気持ち」を谷川さんが一人遊びが好きだったご自身の幼少期の体験を織り交ぜながら表現し、それを和田さんが縦に開く形式の定点で最後まで表現した実験的な絵本です。

女の子の絵が壮大な研究結果に

『はなとひみつ』

文：星新一
1979年　フレーベル館

駆け出しデザイナーの頃から、絵本は和田さんがやりたい仕事の一つでした。そんなある日、依頼を待っていては絵本を作れないと、自費出版で絵本の制作を始めます。そうやって7冊制作したうちの1冊が『花とひみつ』（1966年）。学生時代からのファンで一度仕事をしたことがあるだけで面識のない星新一さんに、今江祥智さんを介して依頼したのです。星さんは完成した本10冊が原稿料がわり、という大胆な依頼を引き受けてくれました。本書はそれをもとに新たに制作されたもの。
花の大好きなハナコちゃんがモグラを使って花を咲かせることを思いつき描いた絵が、秘密の研究所に舞い込んだ。その絵を見た研究者たちは……。

若きクリエイターとの交流の日々

『銀座界隈 ドキドキの日々』

1993年　文藝春秋
1997年　文春文庫

和田さんが大学卒業後、銀座にある広告制作会社ライトパブリシティで働いていた頃の銀座の思い出や交友録、仕事などを綴ったエッセイです。篠山紀信さんや横尾忠則さん、武満徹さん、寺山修司さんら、その後に各界の巨匠となる若きクリエイターらとの交流が描かれています。東京オリンピックの時に格安でヨーロッパ旅行をした話やハイライトのデザインをはじめとする仕事の逸話、銀座で通った名店のことなど。和田さんの青春時代の回想録であるとともに、高度成長期の銀座を知る資料としても価値のあるものです。講談社エッセイ賞受賞。

息のあったコンビネーション

『青豆とうふ』

共著：安西水丸
2003年　講談社
2021年　中公文庫

和田さんがファンだと公言していたイラストレーターの安西水丸さん。安西さんにとって和田さんは憧れの人でした。互いの仕事を尊敬する二人は、生前コラボレーションの展示を毎年開催していました。本書はそのコンビで交互に絵と文を描いたらという和田さんのアイデアで始まった連載がまとまったもの。
和田さんのエッセイに安西さんが絵を描き、次号ではその逆を。エッセイの内容もバトンしていく方式でした。映画や音楽、身辺の出来事などが、洒脱な筆致で綴られています。さてこの不思議なタイトル、実は村上春樹さんの命名です。

20代の瑞々しい感性の仕事

『日活名画座 ポスター集』

2021年　888ブックス

日活名画座は、かつて東京・新宿にあった名画座で、20代の和田さんは9年間ポスターを手掛けました。シルクスクリーンの印刷会社サイトウプロセスの社長から「映画が好きならポスターを描いてみないか」と声をかけられたことがきっかけです。好きな映画のポスターを描けるのならばと、和田さんは喜んで引き受け、9年間、月平均2枚のポスターを無償でデザインしています。筆のタッチや大胆なトリミングと色彩構成が新鮮で、これらの映画を見たいと思わせるポスターは和田さんのキャリア初期を代表する仕事です。
生前の展覧会で数枚は展示されていましたが、ここには、没後発見された185枚がまとまっています。

83年の足跡と仕事を辿る決定版

『和田誠展』

2021年　ブルーシープ

「和田誠展」公式図録として、展示に則したテーマの主要作品と、83年の生涯の出来事と仕事が1年ごとにまとまっています。本書には、和田さんを知る上で欠かせない仕事を収録していて、展示しきれなかった仕事や、会場の年表柱よりも詳細な年表を収録。またテーマごとの和田さんのテキストや発言も散りばめられているので、展覧会の記憶を持ち帰る以上の情報が詰まっています。
図版約2000点、520ページの大ボリュームですが、それでも和田さんの仕事全体のほんの一部にすぎません。

熊本市現代美術館開館20周年記念プログラム

熊本市現代美術館は今年、開館20周年を迎えます。本年度は各種記念プログラムを通して、これまでの歩みを振り返りながら、今後の熊本市現代美術館のあり方についても考えていきたいと思います。どうぞご期待ください。

EXHIBITION

ギャラリーⅠ・Ⅱ

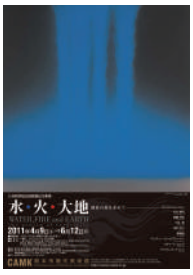
不思議の森に棲む服 ひびのこづえ×KUMAMOTO展

会期：
2022年7月 2日(土)
――― 9月19日(月)

コスチューム・アーティストのひびのこづえと当館は2010年より交流を深めており、開館20周年の本年、いよいよ満を持しての個展です。
ひびのの作品(コスチューム／衣装)は、カエルやカブトムシ、海の生き物、マンモス、骨など、地球に存在するありとあらゆる生き物、現象、人工物がそのアイデアのヒントです。本展では、深い森の中で、多様な生き物たちがざわめく不思議な世界を表現するような、唯一無二のクローゼットを熊本に出現させます。

ROOTの衣装で踊るアオイヤマダ 2021 photo：上原勇

MAMMOTHの衣装で踊る藤村港平 2020 photo：出口敏行



ギャラリーⅢ
G3-Vol.145

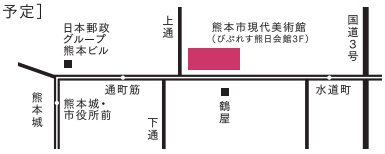
CAMKポスター大回顧展

会期：2022年6月8日(土)－8月21日(月)

展覧会ポスター約100点を通して、当館がこれまでの20年間に開催してきた展覧会を振り返ります。
会期中には、過去の展覧会ポスター約30種類の無料配布も行います。
(＊種類と数には限りがあります、ご了承ください。)

熊本市現代美術館
Contemporary Art Museum, Kumamoto

ART KISS LETTER Vol.103(2022年6月)［次号は2022年7月発行予定］
編集：佐々木玄太郎　執筆：吉田宏子　デザイン：apuaroot
印刷：シモダ印刷　発行：熊本市現代美術館　www.camk.jp
〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3 Tel 096-278-7500



［来館者の皆さまへのお願い］新型コロナウィルスの感染拡大を防止し、美術館を安全にご利用いただくため、ご来館の際には手指消毒・咳エチケットのご協力をお願いいたします。また、発熱・咳・くしゃみ等の風邪の症状がある方は、ご来館をお控えください。